

---

# キミが恋しくて

高橋 美羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キミが恋しくて

### 【コード】

N9100C

### 【作者名】

高橋 美羽

### 【あらすじ】

諒矢と伊織の甘いお話。今回のキワドは『嫉妬』

『伊織？何怒ってんの？』

放課後、学校からの帰り道。恋人の諒矢の言葉を無視して、黙々と歩く。

同じクラスの梁川と廊下で楽しそうに話す諒矢を見て、腹が立ったのだ。

『伊織さあ、もしかして俺が梁川と話してた事、妬いてる？』

『なっ……ち、ちがうよ。何で梁川と話してる諒矢を見て俺が嫉妬しなきゃなんね……んっ……』

俺の言葉は、諒矢のキスによって拐われてしまった。

それは、いつもよりも長く、優しいキス。諒矢の唇から、甘い疼きが波紋のように広がっていく。

くだらない嫉妬でモヤモヤしていた俺の気持ちも、少しずつ落ち着きを取り戻していく。

『あのさ、どんなに俺が伊織にメロメロなのか、わかってる？』

恥ずかしすぎる台詞に、俺は諒矢の顔を直視できない。

『……ゴメン。梁川と楽しそうに話してる諒矢見てたら、なんだか

妬けてきちゃって』

さっきまで嫉妬モ ド全開だったのがバレバレだ。

『伊織の嫉妬も、かわいいよ。それに、俺に興味なくなってもらっても困るし』

やっぱり諒矢には、敵わないや。俺だって、同じ気持ちだけど、こんなに素直に諒矢に伝えられないし。

もどかしい気持ちを何とかしたくて、俺の方から諒矢にキスをした。

言葉だけでは伝わりきらない気持ちを込めて……

… END …

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9100c/>

---

キミが恋しくて

2010年11月24日09時05分発行